REPORT

第7回 日本臨床薬理学会 東海･北陸地方会を終えて

藤田医科大学医学部薬理学
近　藤　一　直

会　期：2023年6月4日（日）13：00〜17：45
会　場：完全Web開催
会　長：近藤一直（藤田医科大学医学部薬理学）
テーマ：切り拓く未来の薬物療法

1．開催概要

第7回東海･北陸地方会は，前年度第6回大会（山内高弘会長：福井大学）に続いて完全web開催で行われました（**Figure 1**，**Figure 2**）．対面式現地開催の行事が復活しつつある中でしたが，我々運営側の経験値と体力などを考えて早い段階でweb開催を決めました．コンパクトな会をイメージして行いましたが，当日の参加人数140名と多くの皆さんに参加いただき（うち医師25名，医師以外97名，学生18名），その内訳として多くの学生会員が参加してくれたことなど，バランスも良かったのではと感じております．

一方で，開催のタイミングとしてはポストコロナ時代の始まりでもある，ということも意識しました．大会テーマを「切り拓く未来の薬物療法」としたのもその表れで，特別講演およびシンポジウムの方向性にそのような意図を反映したつもりです（**Table**）．

Figure 1　大会ホームページトップ画面

2．特別講演

特別講演は，本学微生物学教授の土井洋平先生をお招きして「COVID-19の治療薬開発〜教訓からの学び〜」という演題でご講演いただきました．土井先生は基礎講座の主任教授であるとともに大学病院の感染症科教授を兼任されているお立場で，パンデミック初期に世間を騒がせたダイヤモンドプリンセス号の陽性者および濃厚接触者を受け入れた際には陣頭指揮を執られた方です．新規開院を間近に控えていた本学第4病院・岡崎医療センターに128名を受

Figure 2　大会ポスター

著者連絡先：近藤一直　藤田医科大学医学部薬理学　〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪1-98
TEL：0562-93-2460　E-mail：k17kondo@fujita-hu.ac.jp
投稿受付2023年8月1日，掲載決定2023年8月4日
ISSN 0388-1601
Copyright：©2023 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics（JSCPT）

Table　大会スケジュール

13：00	13：00―13：05　**開会の挨拶**
	13：05―14：05　**特別講演** 座長：近藤一直（藤田医科大学医学部 薬理学） 演者：土井洋平（藤田医科大学医学部 微生物学・感染症科）
14：00	14：15―14：55　**一般演題（口演）セッション１** 座長：乾直輝（浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座）
15：00	15：00―15：40　**一般演題（口演）セッション２** 座長：川上純一（浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部）
	15：50―17：30　**シンポジウム** 座長：鈴木昭夫（岐阜大学医学部附属病院 薬剤部） 内田信也（静岡県立大学薬学部　実践薬学分野） 演者：永田絵子（オリーブこどもクリニック） 船渡三結（岐阜大学医学部附属病院 薬剤部） 大城真理奈（昭和大学病院薬剤部，昭和大学薬学部病院薬剤学講座） 鈴木寛（株式会社 やまうち薬局）
16：00	
17：00	
	17：30―17：35　**支部長挨拶**
	17：35―17：40　**次回開催について**
	17：40―17：45　**閉会の挨拶**

け入れ，二次感染を一人も出すことなく全員を送り出すという成功体験に基づき，治療薬およびワクチンの開発にも積極的に挑戦されたフロンティアです．極めて特殊な条件の下，本学で行われたCOVID-19治療薬の治験において経験されたことをお話しいただきました．緊急承認や特殊承認といった耳慣れない用語も交えて，当局とどのような折衝があったのかといった生々しい体験談を披露していただきました．

3．シンポジウム

もう一つの柱であったシンポジウムは「製剤上の工夫から生まれる新たな製剤の可能性：臨床応用への臨床薬理的アプローチ」というテーマで行われました．岐阜大・臨床薬剤学の鈴木昭夫先生と静岡県立大・実践薬学の内田信也先生に座長の労をお取りいただき，グミ製剤やフォーム製剤などといった特別な剤形の実用化に挑戦している先生方にご講演いただきました．これは学術総会・地方会を通じてもなかなか触れる機会が少なかった剤形の話題で，若手の先生方がユニークな仕事をされていることを披露する良い機会になったと思われます．

具体的には，内田座長による趣旨説明に続いて：① 永田絵子先生（オリーブこどもクリニック）「乳児血管腫を対象としたプロプラノロールクリームの有効性および安全性の検討―多施設共同非盲検非対照試験」，② 船渡三結先生（岐阜大・薬剤部）「小児患者における造血幹細胞移植前化学療法に伴う口内炎に対するポラプレジンクの予防効果」，③ 大城真理奈先生（昭和大・病院薬剤学）「口腔粘膜炎の治療を目的としたフォーム製剤の服用性と安全性」，④ 鈴木寛先生（やまうち薬局）「地域薬局における酢酸カルシウム含有グミ製剤の調製及び臨床評価」をそれぞれご講演いただきました．

4．一般演題（口演）

一般演題は合計で8演題をいただき，新しく支部長になられた乾直輝先生（浜松医大・臨床薬理学）と，次々期大会長・川上純一先生（浜松医大・薬剤部）に座長の労をお取りいただきました．その内容としては：古関竹直先生（藤田医大・薬物治療情報学）から ①「アセトアミノフェンによる薬剤性過敏症症候群の発現シグナルと発現影響因子の調査」および ②「日本医薬品副作用データベースを用いた免疫チェックポイント阻害薬による間質性肺疾患抑制薬の探索」の両演題をご報告いただき，それに続いて ③ 岡田咲樂先生（名古屋大・化学療法部）「外来化学療法室における高齢がん患者のポリファーマシー及びPIMsの実態」，④ 梁瑶先生（名古屋大・化学療法部）「軟部肉腫におけるパゾパニブとプロトンポンプ阻害薬/カリウムイオン競合型アシッドブロッカーの薬物相互作用の可能性」，⑤ 河本小百合先生（静岡県立大薬学部・実践薬学）「アリピプラゾール含有グミ製剤の健康成人を対象とした味覚官能試験」，⑥ 山田悠人先生（岐阜薬科大・地域医療実践薬学）「個別化医療実現をめざしたLC-MS/MSによるニンテダニブとタクロリムスの迅速測定法の開発」，⑦ 加藤博史先生（藤田医大・治験臨床研究支援センター）「治験使用薬管理の質向上及び業務効率化を目的とした治験依頼者への治験使用薬の管理・運用事前確認フォームの作成と導入」，⑧ 大西真由先生（名古屋市立大薬学部・医薬品安全性評価学）「新規抗リウマチ薬の有効性と安全性に関する研究―ネットワークメタ解析手法を用いた検討―」と，各方面から多彩な演題報告をいただきました．

先に申し上げたように極力コンパクトな運営を，とこだわった結果，優秀演題賞の評価・表彰など気の利いた企画はできませんでしたが，それにも拘らずこれだけの演題を頂戴し，活発に意見交換できたことは運営側として誠に嬉しく有り難く感じました．

5．おわりに

会の最後には次期大会長・安藤仁先生（金沢大・細胞分子機能学）に開催予告とご挨拶をいただき，無事にバトンを渡すことができました．率直に申し上げて大会運営を請け負う自信も無いところからスタートした今回の行事でしたが，前支部長・安藤雄一先生（名古屋大・化学療法部）および前大会長・山内高弘先生（福井大・血液腫瘍内科）からご指導と熱い応援をいただき，無事に開催できたことを喜ぶとともに特に感謝申し上げたい次第です．

今後は一会員として学会のお役に立ちたく思います．地方会・学術総会ともに会員の皆様方と切磋琢磨を重ね，充実した学会となるよう，願ってやみません．引き続きよろしくお願いいたします．